

「税務講習会」会場にて



「消費税」の講習会を開催

二月十七日、組合交換会終了後、東京美術倶楽部において税務講習会が開催されました。今回の組合初となる税務講習会は、確定申告期日控え、煩雑でよくわからない税務問題について組合員に意識を高めてもらい、気軽に税理士に問い合わせができる契機になればと考えて企画されました。

名の手税理士が講師としておいでくださいました。組合が今回依頼したテーマである「消費税」について、それぞれが専門の立場からケーススタディーなどを交えてわかりやすく解説してくれました。

当日の参加者は予定の四十名を超え、関心の高さがうかがえました。講演後の質疑応答では若手を中心に多くの組合員から質問が相次ぎました。特に輸出取引における消費税還付請求

●税務講習会に参加して

消費税の増税が現実化しつつあるが、私自身消費税の実務に関してはわからないことがたくさんあったので、今回の税務講習会には進んで参加させていただきました。

この講習会の開催に当たって、講師陣の所属するAGSコンサルティングには「消費税の解説—概要及び申告について」と題する資料集をわざわざ用意いただきました。

この資料を見ながら、私が最も参考になった事柄を列挙してみます。

消費税の申告において注意すべき点として、消費税の納付税額は預かった消費税額より支払った消費税額を差し引いた金額だが、ただし……支払った消費税額を証明するために帳簿および請求書等の保存が必要(消費税法第三十条第七項)。

講師からは、帳簿および請求書等の保存がない場合は支払った消費税の額を考慮することができず、そのため消費税額全額を納付することになる、と説明されました。この点を聞いて、びっくりしました。

業者間の取引において領収書などのやりとりはほとんど行われないのが昔からの慣例ですが、それでは支払った消費税額が認められない

問題では、実務で直面している疑問や意見が数多くあり、これに対して具体的にアドバイスがいただけたので、今後の対応に役立つと思われる。

講師を務めたAGSの税理士さんたちからは、「今日は活発な意見があり、とても前向きに

となれば大問題です。

交換市場における業者間の取引は当然、売買確認書いわゆるハガミで証明されるものですが、それ以外の取引では銀行送金の控えや領収書等が必要であるとのこと。また、当該書類を七年間保存しておく義務がある(消費税法施行令第五十条第一項・第二項)などの説明も受けました。

なお、若い人たちが質問の多かった海外売上があった場合、すなわち刀剣類を輸出した場合の消費税還付を受けるための必要書類ですが、われわれが想定していた海外からの入金を証する銀行通帳や輸出鑑査証明、EMSなどの控えだけでなく、輸出許可書や税関の輸出証明書が必要になるそうです。この件に関しては、国税庁のホームページを参考に、慎重に手続きをしてくださいとのことでした。

このほかにも、勉強になったことが多々ありました。このような講習会は今後も引き続き開催していただきたいと思えます。この講習会に都合で参加できなかった方には、希望があれば、組合を通して資料をお分けくださるそうです。

大変お忙しい中、講師としておいでくださった鈴木秀弥・田倉祐輔・江波戸大輔・与野木恵子の各先生には深く感謝申し上げます。

(眞賀吉也)



NEWS, TOPICS, INFORMATION, OPINION & EDITORIAL

VOL.4

2012.3.15

発行人 深海信彦
 発行所 全国刀剣商業協同組合
 〒169-0072 東京都新宿区大久保2-18-10
 新宿スカイプラザ1302
 TEL:03(3205)0601 FAX:03(3205)0089
 http://www.zentosho.com

- | | | | | | | | | | | |
|------------------|-------------------|-----------------------|------------------|-----------------|-----------------|-------------------|-----------------|---------------------|-----------------|-----------------|
| 久恒孝法
儀正
峯義 | 飯田清高
齋高
服部本 | 雄貴夫
仲吉
吉浩
具宏 | 飯川嶋高
島綱
川持 | 忠将隆
徹夫
弘吉 | 史広洋
民弘
之也 | 朝倉平
藤堀子
土岡賀 | 倉大久
齋新
土藤 | 賢隆
正輝
義彦
琢 | 伊波藤
野井
深宮 | 伊齋生
野井
深宮 |
|------------------|-------------------|-----------------------|------------------|-----------------|-----------------|-------------------|-----------------|---------------------|-----------------|-----------------|

感じられました。輸出取引等における現在不明確な消費税還付要件については、組合として業界の統一見解を示すと経理処理がやりやすくなるでしょうとの励ましとアドバイスをいただきました。

古い商習慣が続いているため経理処理でまだ頭を痛めることが多い業界かと思いますが、これからも新たな情報を共有することを通じて意識を高め、問題が解決されるように努力していきたいと思えます。

充実した二時間でした。

(松本義行)

美術刀剣・刀装小道具商

やしま

齋藤雅稔・隆久・隆洋

刀装小道具通信販売目録
「やしま」
年間10回位発行予定
購読料10回 2,000円(郵便切手可)

刀剣・刀装小道具高価買入

〒202-0022
西東京市柳沢6-8-10
TEL 042-463-5310
FAX 042-463-7955

営業時間 午前9時~午後6時
定休日 毎日曜日・祝日

金工・刀身彫刻・修理・諸工作一式

柳匠堂

柳村宗寿

工房
〒700-0827 岡山市北区平和町二一八
電話(〇八六)二二三二二二九
〒700-0826 岡山市北区磨屋町七二二一
電話・FAX(〇八六)二二三二二二九

甲冑 刀剣 刀装具 古美術一般

福隆美術工芸

代表 網取譲一

〒104-0061 東京都中央区銀座二二二一四
TEL/FAX 〇三三三五四一八二〇九

刀剣古美術

三峯美術店

町田久雄

埼玉県秩父市野坂町一十六六一
西武秩父駅連絡通路町久ビル内
TEL/FAX 〇四九四一三三三〇六七

美術刀剣、小道具、武具類の
売買、加工及び御相談承ります

大阪刀剣会 吉井唯夫

〒106-0031 大阪府中央区日本橋二丁目七番一
電話 〇六(六六三)二二二〇番
FAX 〇六(六六四)五四六四番

象牙などの加工品の取り扱いにご注意 経産省への特定国際種事業者の届け出を

ワシントン条約や「種の保存法」によって絶滅危惧種の取り扱いに厳しい規制があることは広く知られている。しかし、刀装や甲冑にも適用されることがあるのを存じだろうか。知らないでは済まされない法律の知識と手続きについて解説する。

世界の自然環境が急速に悪化してゆく中、絶滅の恐れのある野生動物植物を保護するために各国が動き出し話し合われた結果、「絶滅のおそれのある野生動物植物の種の国際取引に関する条約」(ワシントン条約、一九七五年発効)が締結されたことは、皆さんご存じのことと思います。

これに伴い、日本も八〇年昭和五十五年)十一月より条約に参加、象牙・タイマイ(ウミガメ)などには厳しい規制がかかることになり、輸出入できなくなりました。

それでは現在、国内で流通する絶滅危惧種等の剝製・加工品(毛皮・牙などの扱いはどうなっているかと調べますと、平成五年に「種の保存法」(正式には絶滅のおそれのある野生動物植物の種の保存に関する法律)という法律が施行され、絶滅の恐れのある野生動物植物の保護が始まりました。平成七年からは商業目的を中心とする象牙・ベッコウ甲業者に在庫量の届け出が義務づけられ、加工品などの流通に規制がかけられており、これに違反すると懲役または罰金の罰則があります。

私たち刀剣商の扱う商品の中には古い時代からこのような加工品が組み込まれており、市場や店頭で売買されている現在、言うまでもなく法律を厳守していかなければなりません。それにはまず、経済産業省へ

届け出が済んだからといって絶滅危惧種のすべてが扱えるものではなく、原形を保っているものには登録票が一点に一枚ずつ必要なのです。この点を注意しないと、違法の意思がなくても「種の保存法」により処罰の対象となりかねません。

「種の保存法」やワシントン条約では、この象牙・タイマイなどを最も厳しく取り締まっております。

われわれの業界でも、過去に象牙などの加工品が付随した白鞘・拵・甲冑類を海外に輸出したが相手国の税関でワシントン条約の取引規制に抵触し、送り返された事例が少なからずあります。

そのような懸念のある輸出品の場合は、経済産業省貿易経済協力局貿易管理部貿易審査課にて「輸出承認証」と「ワシントン条約に基づく輸出許可書」を取得し、商品に添付して輸出しなければなりません。申請書類を十枚ほど作成する必要がありますが、書式は経済産業省のホームページからダウンロードできます。「経済産業省貿易管理」(ワシントン条約)のキーワードで検索)。

絶滅危惧種の加工品(象牙・ベッコウ甲など)は特定国際種事業者としての登録で取り扱っていただきますが、象牙の原形を保っているもので商業目的とする生牙・磨牙・彫牙、タイマイなどの剝製については、刀剣の銃砲刀剣類登録証と同じように財団法人自然環境研究センターから登録票を取得し、それを付けて展示や販売、譲渡をしなければなりません。特定国際種事業者の届

前の品物が前提で、この申請には公的に認可されている美術館・博物館が発行した輸出品の時代を証明する書類が必要になります。美術商や美術店の発行する証明書では受け付けてもらえません。

七五年以降に入手したものであれば、追加の申請書類として七五年以降入手するまでの流通経路を証明できる書類が必要になります。その間に、例えば三人の所有者が変更になっていれば、各人の販売・譲渡証明書を追加で提出します(書式はダウンロード可能)。

われわれ組合員は現在、都道府県公安委員会から古物商許可証を取得し営業しておりますが、経済産業省へ特定国際種事業者としての届け出をしておくことも、古物商許可証の取得と同じくらい重要なことです。まだ届け出を済ませていない組合員の方は、早急に手続きされることをお勧めします。

申請・問い合わせ先
●象牙の加工品等を取り扱う者として特定国際種事業者の登録申請する場合、地域により届出書の提出先が異なります。詳しくは経済産業省「種の保存法」担当(〇三三三三〇一〇八九)まで。茨城・栃木・群馬・埼玉・千葉・東京・神奈川・新潟・山梨・長野・静岡在住の方は関東経済産業局産業部国際課(〇四八六〇〇〇二六五八)

●生牙・磨牙・彫牙、タイマイ(ウミガメ)などの剝製への登録票を取得する場合、(財)自然環境研究センター(〇三五八二四一〇九五三)

●海外輸出に際しワシントン条約の取引規制にかかわる輸出手続き、経済産業省貿易経済協力局貿易管理部貿易審査課(〇三三三〇一〇一五一一)へ(嶋田伸夫)

当組合理事山田均さんが昨年十二月二十七日未明、六十九歳で逝去になりました。ここに謹んで哀悼の意を表し、ご冥福をお祈り申し上げます。

山田さんと組合との関係は草創期からでありました。柴田光男初代理事長の愛弟子というところから、柴田理事長のいわば懐刀的存在として当初から活躍しておられました。

二代荒勢英一理事長のときは常務理事を二期四年務められました。組合の規約の素案作り、各委員会の素案作りなどに氏の頭脳は存分に発揮され、組合を陰で支えておられました。

その後も引き続き理事を務められ、朝倉万幸理事長の時代に



山田均さんを偲んで 理事 冥賀 吉也

は副理事長として重責を果たされました。当組合にとっては、まさに長年にわたる功労者であります。

普及啓蒙活動の面では『日本刀重要美術品全集』全八巻刊行が挙げられます。

重要美術品認定の刀剣類について、見開きの左ページに写真版、右ページに解説と時には談を載せ、さらに刀文と押形とを加えています。特筆されるのは、その刀剣が何の本に所載されているかを明示している点で、あらゆる資料を徹底的に調査・分析したことがわかります。

本全集が発行される以前は重要美術品目録があるのみで、図版が公表されたものはありませ

んでした。ですから、本書の発行によって、重美であると言われながら実際には重美でなかった刀や、逆にあらためて重美であると確認された例がいくつもあったと聞いています。

この重美全集は広井雄一先生の編著、本間薫山先生の監修により、約三万年の歳月をかけ昭和六十一年に完成しました。その膨大な作業の陣頭指揮を執ったのが、発行責任者でもある山田さんでした。この全集は、刀剣界にとってまさに金字塔に値するものです。

ほかに、昭和五十三年から六十年までの八年間にわたって発行した季刊誌『大素人』という研究論文集があります。この発行責任者も山田さんでした。

防犯協力活動においても、縁の下の方持ちとして三十年近く活躍されました。師匠の柴田光男先生が東京・麹町古物商協会の会長を長年務められた関係から、山田さんはその事務局兼会計を担当されました。

山田さんは昭和十七年、静岡県伊豆の戸田村に生まれ、早稲田大学文学部を卒業後、株式会社刀剣柴田に入社、約八年間勤務され、円満退社後「正見堂」を創業、後に故郷の戸田村山にちなみ「舟山堂」と改め、会長として活躍されました。

常に刀剣の研究を怠らず、商人というよりむしろ学者肌の方でした。われわれわからないことがあると、最後は山田さんに尋ねたものでした。刀剣界の「生き字引」と言われるくらい博識でした。

それに、酒豪ではありませんが、こよなくビールを愛されませんでした。無口で余分なことは言わないものの、心の優しい兄貴分であり、いつでも周りに人の和が絶えませんでした。

また、スポーツの大愛好家な方でした。若いころはわれわれと草野球や、当時流行していたボーリングを楽しみ、五十歳のころからはゴルフに熱中しました。普段はあまり笑顔を見せない山田さんでしたが、ナイスプレーをしたときなどに見せる、少年のような笑顔が今も脳裏に焼き付いています。

亡くなって初めてその人の本当の人間柄が偲はれると言われま

す。暮れの押し詰まった折にもかかわらず、通夜・告別式には大勢の方々にご参列いただきました。また、飾りきれないほどたくさんのご供花をいただきました。今ごろは、全力商に尽力された鬼籍に入られた柴田光男先生、荒勢英一さん、一番の仲良かった齋藤光興さんらに迎えられ、天国で美酒を酌み交わしながら、刀剣界のことを話しているのかもしれない。

全刀商組合員一同、この不況下の難局に向かって、深海信彦理事長を先頭に全力でがんばりますので、どうか見守っていただきます。

山田さん、お疲れさまでした。安らかに眠りください。 合掌。

若者広場

大平将広

日本刀を より多くの人へ

日本は不景気と言われる中、今後の刀剣業界のさらなる飛躍のために、私たちは何をすべきか。二十代の私が語るには大きすぎるテーマですが、今を生き次世代を担う者として提案したいことがあります。

まず日本刀が認知される重要性について述べたいと思います。世の中にはどんなに優れた商品があったとしても、その存在を知っている人、使っている人がいなければ、その商品は流行りません。

日本に住んでいる人であれば、日本刀というものの存在を知らない人は、まずいないと思います。しかしながら実際、刀屋に行って現金さえ支払えば誰でもそれを手に入れられる、という事実を知っている人はとても少ないのが現実です。

私事ですが、一昨年、当店はテレビ朝日系列で放映されている「ちい散歩」という旅番組にて紹介していただきました。

当店が紹介された実際の放映時間は二、三分程度ですが、その広告効果はあまりに大きく困惑したものです。放映日の翌朝、店のシャッターを開け、通りを掃除していると道行く人に「テレビで見たよ!」と声をかけられ、はたまた遠く離れた地方から「テレビを見て〜」とお電話をいただき、実際に一振買っていただきました。

このように、存在を認知されるということが、刀剣という閉

鎖的な業界において非常に重要であると私は感じています。それを踏まえた上で、二つの方向へアプローチをかける必要性を感じています。

一つは、現時点で実際に購買力がある人かつ潜在的購入者への訴えです。

そのような人々が多くいる場はどこか、と考えたときに私が思い浮かべるのは美術館です。美術館巡りを趣味とされているのは年配の人が多くと予想しますが、そういった方々はさまざまな芸術への見識が広く、今はまだ日本刀を深く知らないけれども、素直に美しいと思ひ、興味もくはない、かつ購買力がある。そうした層が確実に存在すると思えます。

その層へ何をどうアピールするか、ということが問題となりますが、そこで先ほど申し上げた「認識していただく」ということを優先させるべきではないでしょうか。

われわれ刀剣商に直接的な利益が発生する可能性があるため、美術館内で現実に可能かどうかはわかりませんが、ポスターなどに、例えば日本刀は誰でどにより、例えば日本刀は誰でも買える、刀屋にいけばもう少し詳しく教えてもらえる、手に取って鑑賞もできるというアピールができれば、と思います。美術館のみならず、テレビ・新聞・電話帳・インターネットなどの情報媒体へのアプローチを可能なところから実践していくことも重要ではないでしょうか。

既に趣味として日本刀に接している方は、自ら勉強会や刀屋を巡り情報収集をされていることと思いますが、われわれ刀剣業界人が、潜在的購入者を手助けし、横に広がる道を示すべきではないでしょうか。

二つ目は次世代を担う子供たちへ、日本刀は世界に誇る美術品であるという真実を浸透させることです。

前号の当コーナーで瀬下昌彦氏も指摘していましたが、「〇〇離れ」を筆頭に今の二十代は節制や節約をし、浪費することを嫌う傾向が強いです。これでは二十年後、四十年後に購買力のある大人になったとき、果たして日本刀という高価な美術品へ投資するでしょうか。

そう考えたときに、今から十歳前後の子供たちに日本刀というものがどんなものなのかを知ってもらうことが必要ではないかと思えます。例えば、小学生などに実際に刀を手にとって見てもう一度機会をつくってはどうかと考えます。

小学生ぐらいの男の子といえば、アニメ・ゲーム・漫画などの影響から刀や剣や銃に興味を持ち、どちらかといえばそういったものが好きだ、かっこいい、と思う方が多いのではないのでしょうか。このような取り組みを重ねることによって、ゆくゆくは刀に触れた経験のある子供たちが自ら刀に関心をもち、入手したいと思うケースが増加するのではないかと思われま

視点・論点

ことが日本文化の振興につながり、ひいては利として返ってくるのではないのでしょうか。

最後にありますが、ここで具体的な提案をしたいと思ひます。現在、テレビ東京系列で放映され好評を博している「開運!なんでも鑑定団」の放映時間枠に、今年の大刀剣市のCMを流してみたいかがでしょうか。この番組を見ている人の中に

は前記の潜在的購入者も少なからずいるはずだし、ストリートに催しをアピールすることができると思ひます。

これからは全刀商が日本刀の第一人者として先陣を切ることに、刀剣業界がさらに発展するのではないのでしょうか。☆筆者の大平将広さんのプロフィールについては「刀剣商リール」をご覧ください。

都道府県無形文化財を どう生かすのか

吉原國家(長野)宮入法廣・奈良)月山貞利・河内国平(島根)小林貞照・小林貞法・小林貞永(岡山)安藤広清(広島)三上貞直(徳島)杉山正俊

以上は各個認定であるが、特異な例として岐阜県では美濃伝日本刀鍛錬技法を重要無形文化財に指定し、美濃伝日本刀鍛錬技法保持者を会を団体認定している。保持者会の構成員は尾川兼圀・二十四代藤原兼房・藤原兼成の三名である。

刀匠以外の日本刀関連無形文化財保持者には、日本刀研磨技術の本阿彌光洲(東京)と、金

工(刀身彫刻)の柳村宗寿(岡山)がいる。

都府県無形文化財と市町村無形文化財の関係は、並立する場合と、上位の指定・認定によって解除される場合がある。岐阜県無形文化財は、関市無形文化財から格上げされた形である。一方、人間国宝の天田昭次は依然新瀉県無形文化財と新発田市無形文化財の保持者に認定されている。

この保持者たちに人間国宝のような特別助成金があるかという点、一切ない。いわば証書と名譽が与えられるのみである。

東京都の補助金要項によれば、伝承者の養成や研修発表会、保存に必要な道具・設備の補修整備などは対象となるときれるが、専断にして、うまく運用されている例を全国でも知らない。

このようなおさなりの制度は寒心に堪えない。

高度な伝統技術の保持者がさらに錬磨し、それを伝承していく支援となり、かつ成果が地域に還元されて住民の誇りとなるような無形文化財のあり方はないものだろうか。業界としても考えてみたいものである。(下)

刀剣・小道具・甲冑武具

創業明治十三年

目白 **飯田高遠堂**

代表取締役 飯田慶久

〈JR山手線目白駅下車徒歩左へ3分〉

営業時間 午前10時～午後6時
定休日 水曜・土曜(日曜営業中)

〒161-0033
東京都新宿区下落合3-17-33

TEL 03(3951)3312
FAX 03(3951)3615

<http://www.iidakoendo.com>

野田会 刀剣・刀装具市場 毎月三日・十九日開催

(株)美術刀剣松本

松本富夫

〒二七八一〇〇四三 千葉県野田市清水一九九一

TEL 〇四(七二二)一一二二
FAX 〇四(七二二)一九五〇

美術日本刀・鐔・小道具・甲冑

日本の伝統文化を彩る

JAPAN SWORD CO., LTD.

ホテルオークラ 出口2 虎ノ門
三丁目角 地下鉄虎ノ門駅2番出口より直進、徒歩3分(日祝休)

(株)日本刀剣

伊波賢一 Ken-ichi Inami

〒105-0001
東京都港区虎ノ門3-8-1

TEL 03-3434-4321
FAX 03-3434-4324

銀座 **泰文堂**

「刀剣画報」
実寸大通信販売カタログ
年6回発行 年間購読料4,000円

〒104-0061
東京都中央区銀座4-3-11
松崎煎餅ビル4階

(株)銀座泰文堂 代表 川島貴敏

TEL 03-3563-2551
FAX 03-3563-2553
フリーダイヤル 0120-402037

<http://www.taibundo.com>

刀剣 高吉

古名刀から現代刀、御刀のことならお任せください!

連絡先
090-8455-2222

60回までの低金利刀剣クレジットお取り扱い

〒114-0023
東京都北区滝野川7-16-6

電話 03-5394-1118
FAX 03-5394-1116

営業時間11時～19時
月曜日定休(祝日は営業)

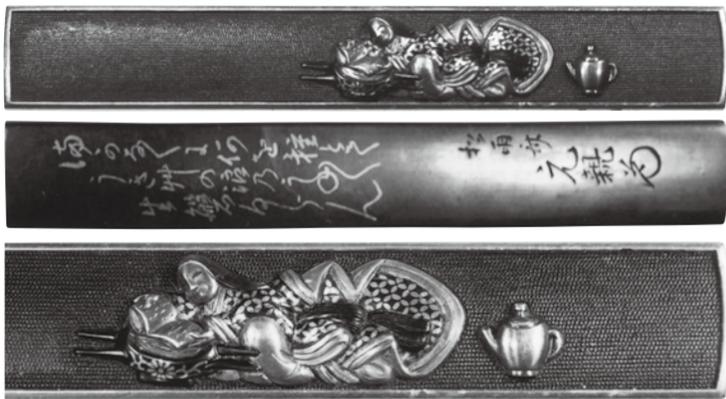
代表者 高島吉童

www.premi.co.jp

私が出会った珍品

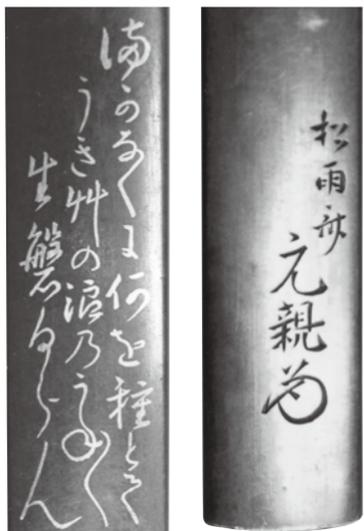
〈草子洗小町〉

小柄 草子洗小町の図
銘 松雨齋元親(花押)
赤銅魚子地高彫据文色絵裏板
臚銀地 9・68cm x 1・44cm



優秀な赤銅地。粒立つ細微な魚子は、天地に詰まり、時代がよく埋まる。小縁のみに金喰み。小野小町、草子と水、水を注ぐ匣と衣装の一部に、それぞれ銀色絵。角盤と衣の文様に金本象嵌。衣の随所に金色絵。裏板は、黒みの強い臚銀地。小野小町の歌は金本象嵌。

「時かなくに 何を種とて浮草の 波のうねうね生 繁るらん」



作者の仲上清兵衛元親は京都金工。元廣門人、または甥ともい

画題は、内裏での歌合において、大伴黒主から剽窃者の嫌疑をかけられた小野小町が、黒主の奸計を見破り、万葉の草子を洗うことにより、黒主の入筆を洗い去る瞬間である。

この後に、黒主は慚愧のあまり自決しようとするが、小町の取りなしで救われる。帝から許され、共に遺恨に思うことなく、めでたい雰囲気の中、小町は聖代と和歌の道をたたえて舞う。

う。安政ごろ。現存する作品は、元廣と子の元次は多いが、元親は比較的少ない。

本作は、外国の文献に図版が掲載されている。大正二年刊行の『ペーレンス・コレクション』No.七二八、大正十二年刊行の『古事實典』第一巻四五六ページ。

特筆すべきは、右記の文献において、詳しい解説がなされ、作品が正確に理解されていることである。従って大切にされたものと思われ、状態もすこぶる良い。

平成十二年に、ニューヨーク・クリスティーズにおいてグラフィス・コレクションとして売り立てが行われ、里帰りして現在に至る。

あらためて申すまでもなく、私どもの取り扱う刀剣ならびに刀装具には、製作者以外にも、それぞれの時代に使用あるいは所蔵した多くの人々の「思い」が込められており、作品はこれ

からも伝世していく。

世に言う言葉で、「美術品は一時の預かり物」と言うが、売

買を生業とする自分にとり、特別にその感深い。次の世代の愛好家への受け渡しの手伝いができれば幸い、と思う今日のご

全刀商の活動紹介(経済委員会) 組合交換会決済システムについて

諸先輩の努力により、組合設立間もないころから商工中金との取引が始まり、当座勘定口座の開設ができました。これにより、交換会の出来高に応じて相互額を借入できるようになり、あらかじめ多額の現金の用意がなくても、組合員への小切手支払いに支障を来すことなく今日に至りました。

組合組織は公的なものですが、扱う現金は極力最小限にとどめなければなりません、金融オンラインシステムの発達を可能にしています。

振り返って刀剣交換会というところ、帳場に現金山積みという古典的な世界が見えます。聞くところによると、美術倶楽部の数ある交換会の中で、一日中必死に現金を数えているのは刀剣の交換会だけのようです。

組合こよみ

(平成23年12月~平成24年3月)

- 12月16日 深海理事長・土肥副理事長・猿田副理事長が産経新聞本社を訪問し、明美ちゃん基金に250,000円を寄付
- 12月17日 東京美術倶楽部にて組合交換会を開催。参加66名、出来高41,457,000円
- 12月19日 組合員山本一郎氏御令室の計報通信、生花・弔電
- 12月22日 『産経新聞』に明美ちゃん基金への寄付の件が掲載される
- 12月22日 『刀剣界』第3号編集委員会を開催。出席者、深海理事長・川島副理事長・清水専務理事・伊波常務理事・服部理事・嶋田理事・綱取理事・持田監事・生野正氏・宮澤琢氏・藤岡弘之氏・土子民夫氏
- 12月27日 山田均理事の計報通信、生花・弔電
- 12月28日 山田均理事の通夜
- 12月29日 山田均理事の葬儀
- 1月17日 東京美術倶楽部にて組合交換会を開催。参加66名。出来高41,572,000円。
- 1月17日 東京美術倶楽部にて理事会を開催。出席者、深海理事長・猿田副理事長・土肥副理事長・川島副理事長・清水専務理事・齋藤理事・朝倉理事・飯田理事・城所理事・嶋田理事・新堀理事・高橋理事・玉井理事・綱取理事・服部理事・冥賀理事
- 1月17日 東京美術倶楽部にて『刀剣界』第4号編集委員会を開催。出席者、深海理事長・川島副理事長・清水専務理事・嶋田理事・冥賀理事・服部理事・飯田慶雄氏・生野氏・藤岡氏・松本義行氏・宮澤氏・大平将広氏・土子氏
- 2月15日 深海理事長・清水専務理事・伊波常務理事・齋藤常務理事が財団法人日本美術刀剣保存協会を訪問、協会から審査料金の改定案が提示され、協議を行った
- 2月17日 東京美術倶楽部にて組合交換会を開催。参加65名、出来高27,865,500円
- 2月17日 東京美術倶楽部にて税務講習会を開催。AGS税理士法人より講師4名派遣
- 3月5日 『刀剣界』第4号・第5号編集委員会を開催。出席者、深海理事長・清水専務理事・伊波常務理事・朝倉理事・齋藤理事・綱取理事・服部理事・冥賀理事・飯田慶雄氏・大平氏・生野氏・宮澤氏・土子氏
- 3月6日 町村信孝衆議院議員の勉強会に深海理事長が出席

お知らせとお願い

本紙購読について

『刀剣界』は隔月で発行しています。購読料は無料です。組合員・賛助会員以外の方で継続購読を希望される方は、組合までお申し込みをお願いします。なお、お手数ですが、年間送料実費として四八〇円をお送りください。

情報を募集しています

本紙は組合の機関紙であるとともに、紙名の通り刀剣界を網羅し、斯界に役立つ情報紙であることを願っています。つきましては、広く情報をお寄せくださるようお願いいたします。イベント・レポート、催事情報をはじめ、ご覧になった新聞や雑誌記事、TV番組の

感想、エピソードなど、何でも結構です。ただし、紙面の関係で編集させていただきますので、ご承知おきください。

広告募集中です

本紙も読者にとっては有益な情報の一つです。本紙では記事とともに順次、広告欄の充実も期してまいります。料金は、2段5分の1(縦96mm×横48mm)、年間六回で六万円です。ただし、編集委員会の審査によりご希望に沿えない場合もあります。詳しくはお知りになりたい際は組合にお問い合わせください。

お申し込み・お問い合わせ先

全国刀剣商業協同組合(全刀商)
〒169-0072 東京都新宿区大久保二一八一〇 新宿スカイプラザ一三〇二二
TEL 03(32205)0601 FAX 03(32205)0089

刀と法律 ABC

第3回

登録審査

発見届けが済むと、次は登録審査です。

発見届けまでは警察の管轄ですが、登録審査に関する場合は文化庁の所管となり、登録証の交付は各都道府県の教育委員会で行われます。

警察署で発見届けの手続きが済むと、後日、各都道府県の教育委員会より登録審査の会場と日時について連絡があります。その指示に従い登録審査を受けますが、当日は登録審査を受ける刀、発見届出済証、印鑑、そ

して登録料を持参します。登録審査は本人以外の第三者に依頼することもできませんが、この場合は委任状が必要になりますので注意しましょう。

ここでは、文化庁から委嘱された登録審査員により、発見届を受けた刀が美術的もしくは骨董的価値があるか否かを審査されます。ほとんどの刀は登録証

交付の対象となりますが、一部登録証の発行されない刀もあります。例えば、戦前・戦中に製作された半鍛錬の軍刀(中心に桜や鏽の刻印がある)や、サーベルなどの外国製の刀剣類は対象外となり、登録証は交付されません。

ただし、戦前の製作でも和鉄を鍛錬した美術刀剣は少なくありません。また、中には美術的または骨董的価値のある刀をあるて軍刀として仕立て直したものがあ

いうことはありません。

仮に登録証が発行されない場合でも、刀がすぐその場で没収されるようなことはありませんので安心してください。無鍛錬の軍刀でも親族の遺品であった場合などには特例の処置もあるようですので、教育委員会に問い合わせてみましょう。

そのほか、長年土中に埋もれていたため損傷が著しく、資料的な価値があっても刀剣としての条件を満たしていないもの、青銅で製作された刀剣類は登録の対象外となります。しかし、出土品の中には鋼を使用し、本来の鍛錬方法により製作されたものがあ

り、その場合は登録証交付の対象となります。なお、古式銃砲にも登録証が発行されますが、おおむね慶応三年(一八六七)以前に製作されたものというのが登録鑑定

の基準になっております。

(朝倉忠史)

宮城県美術刀剣保存協会からのお知らせ 被災刀剣類レスキュー事業について

この度の東日本大震災で被災された皆さまには、謹んでお見舞いを申し上げます。

津波被害で水損した刀や、家屋の倒壊などにより瓦礫の中から発見された錆身などはございませんでしたか。これらは、私たちの先祖が大切に守り伝えたものであり、貴重な文化遺産です。できるだけ廃棄せずに知恵を絞って末永く保存し、未来に引き継いでいきたいものです。

つきましては、その対処方法や手入れ方法、発見届などの手続きに関して何でも相談いただけるよう、被災刀剣類レスキュー窓口を開設しました。被災刀剣類の処置についてお困りのことがございましたら、何でもお気軽に相談ください。相談は無料です。

なお、相談会では希望者に、鐔・刀身など鉄製品の錆の進行を防止する防錆フィルムチューブを無償配布いたします。

〈相談例〉

- ・刀剣類が物置や土蔵から発見されたが、どんな価値があるのか、どのような手続きが必要なのかかわからない。
- ・刀剣類を避難所や仮設住宅に保管するスペースがなくて困っている。
- ・刀剣類が津波に遭い、錆やカビの進行が心配である。
- ・刀剣の登録証があったのに地震や津波で紛失してしまった。
- ・刀剣類の修理ができる職人を紹介してほしい。

〈相談窓口〉

〒985-0074 塩釜市一森山1番1号塩釜神社博物館内 宮城県美術刀剣保存協会(会長・法華三郎信房/事務局・鈴木俊一) ☎090-1068-7105 E-mail: okatana-pref.miyagi@piano.ocn.ne.jp



勝武堂の店頭にて大平さん母子

刀剣商リレー訪問④ 母子の信頼で受け継ぐ老舗刀剣店

大平 岳子さん
将広さん

二月に入り、日本海側では記録的な豪雪に見舞われています。ここ東京も雪こそ降らないものの、例年になく厳しい寒さを実感します。

今回はそんな季節の中、ほっこりするような温かいお店にお邪魔しました。美術刀剣勝武堂さんです。

店主は大平岳子さん。お店は地下鉄丸の内線新中野駅を出てすぐの青梅街道沿いにあります。ご主人が若くして他界されたときには、大正から続いたこのお店を閉店することも考えたそうです。しかし、ご子息の将広さんが将来引き継ぐと強い意思を伝えました。そこから母子二人三脚の刀剣店経営がスタートしました。

お店に足を一歩踏み入れると、重要刀剣から居合刀、またさまざまな刀装具が迎えてくれます。そこは、紛れもなく品格漂う老舗刀剣店です。そして、見るからに優しそうな女将さんが奥から現れると、重厚な雰囲気

が一瞬で温かな空間に変わります。このたたずまいと雰囲気こそ、愛好家から初心者に至るまでの多彩なお客さんを惹きつける秘訣なのだと思います。

将広さんは現在、主にインターネットによる通信販売を担当しています。将広さんはこのお店に携わると決めたときから、新規のお客さんをどう開拓するかを考え続けました。最も効果があるのではと思ったのは、ホームページでした。そこから自力で工夫してホームページを立ち上げ、軌道に乗せてきました。

店頭とインターネット、二つの入り口がうまく融合して代々受け継ぐお店を盛り上げているのです。

お二人に互いの印象を質問してみました。すると将広さんは、お母さまの「お客さまとの距離感」が絶妙であることを尊敬しているとのことでした。そしてお母さまはやはり、将広さんのパソコンなどの技術力、またインターネットに対する知識を非常に頼りにし、高く評価しておられました。

母子とはいえ、互いに尊重し補い合うことが、この温かく品格あるお店の基となっていることを実感したリレー訪問でした。

お母さまは、互いに尊重し補い合うことが、この温かく品格あるお店の基となっていることを実感したリレー訪問でした。

お母さまは、互いに尊重し補い合うことが、この温かく品格あるお店の基となっていることを実感したリレー訪問でした。

お母さまは、互いに尊重し補い合うことが、この温かく品格あるお店の基となっていることを実感したリレー訪問でした。

(高澤琢)

刀職紹介

第4回

〈研師〉池田長正さん



池田長正さんは、昭和二十八年生まれの五十八歳。昭和四十七年に私立桐蔭学園高等学校を卒業後、父である刀剣鑑定家池田末松先生の元で研磨の修業をされました。

現在の池田さんは本業の研磨のかたわら、財団法人日本刀文化振興協会の評議員を務め、同協会の公開鑑賞会の運営などに尽力しておられます。また、平成十七年には動画を応用した刀剣の撮影法で特許を取得されるなど、研師の域にとどまらない多才な方です。

平成七年から同十四年までは日本刀装具美術館において日本刀・刀装具初心者入門講座の講師を務められ、同美術館の閉館後も講座を会長兼講師として継続し、愛刀家の育成および刀剣界の裾野の拡大・発展に努めておられます。その真摯なボランティア精神には頭が下がります。

研磨の代金は一寸七千円からですので、通常二尺三寸の刀でしたら十五、六万円ぐらいになります。常々、刀身を極力減らさぬよう細心の注意を払って研磨に臨んでおられます。

連絡先 電話 24330406 神奈川県海老名市国分北二丁目一四 ☎046-231-2535

(川島貴敏)

〈刀匠〉小栗基重さん



小栗基重(本名辰巳)さんは、昭和二十八年生まれの五十八歳。川崎製鉄を退社後の昭和五十三年、喜多貞弘師(月山貞勝門)の内弟子として修業し、同五十八年七月に美術刀剣類の製作認可を受けられました。

また、同年八月からは刀身彫師柳村仙寿師の内弟子となって刀身彫刻を学び、六十一年三月に独立、以後新作刀展などに出品しつつ、現在に至るまで研磨を続けておられます。

現在、小栗さんは作刀・刀身彫刻のほかに、拵に使用する鉄製の金具も製作しています。鉤や鐔、縁頭、小柄、笄など、主に肥後拵の金具を目標としているそうです。実に多芸です。

なお、製作代金については、刀が百万円ぐらい、短刀が五十万円ぐらいとなっております。最後に小栗さんから一言「国内の経済も非常に厳しい折、現在の刀剣界は日刀保と刀文協の二つに分かれ、コンクールも両方で開催されています。将来はどうなるのでしょうか。刀剣界全体の問題として考えていただきたい」と思っています。

連絡先 電話 4370204 静岡県周智郡森町問詰九二七 ☎0538-851-227

☆前号の「ブック・レビュー」執筆者は、正しくは長津祐介氏でした。訂正しておわびします。

ブック・レビュー BOOK REVIEW

罪人の首を斬り続けた一族の苦悩と末路

『斬』

綱淵謙錠 著

本体七五二円 文春文庫

「首斬り浅右衛門」の異名を持つ山田浅右衛門一族。江戸の元禄から明治十四年の廃刑まで、死罪における斬首の刑執行を七代二五〇年にもわたって続けた。

斬首がクローズアップされがちだが、一族の正式家業は「徳川家御佩刀御試用」という試刀家である。その役職に就いていたために、押形集や資料など刀剣界における多大な功績を遺すことができたと言えるのではないだろうか。

この小説は、七代目山田浅右衛門吉利と吉豊・在吉・吉亮・真吉の息子たち、後妻の素伝一家の苦悩と崩壊を描いている。読者は長男吉豊の後を継ぐことになる三男吉亮を通して、移りゆく時代の中、真摯に家職に向き合う姿や刑執行のすさまじさなど知るようになる。

吉亮が初めて罪人の首を落としたのは慶応元年、彼がまだ十二歳のときだった。それから十七年後の最後の刑執行までが小説で描かれている期間だが、わずか十二歳の子供が罪人の首を刎ねるなど、当時の世相の厳しさには驚愕する。一つの読みどころでもある斬首の場面では、有名な政治犯の処刑のほか、夜嵐お絹や高橋お伝など、当時

の新聞・錦絵を賑わせた事件も取り上げ、罪人の逸話も描かれている。何より臨場感あふれる描写は圧巻で、息継ぐ間もなく展開されていく。

物語の合間には作者が参照した豊富な資料や、庶民の間に広まったとみられる首斬り浅右衛門の風評なども紹介されており、当時の世相や歴史に触れることもできる。

綱淵謙錠氏は、この作品で第

六十七回直木賞を受賞している。後書きに次のような言葉が残されている。

「血を見ることを好むだけの人間に読んでもらいたくない。なにかにじっと必死に耐えている人々に読んでいただきたいものである。」

確かに、思わず目を背けたいような生々しい描写はあるが、時代が変わろうとも社会的な屈辱に耐えながら世襲として

プライドを持ち、職を誇り、抜く姿に感動する。

それにしても、崩壊に向かっ

て一家に振りかかる悲劇はあまりにも切ない。

浅右衛門に関する多くの書物がある中、山田家内部の視点か



（齋藤 恒）

古代刀剣の変遷を考古学から体系化

『日本古代の武器・武具と軍事』

津野仁 著 本体二万三〇〇〇円 吉川弘文館

この業界に「刀剣学」という言葉が使用されるようになって久しいが、その中身ははなはだ心もとない。

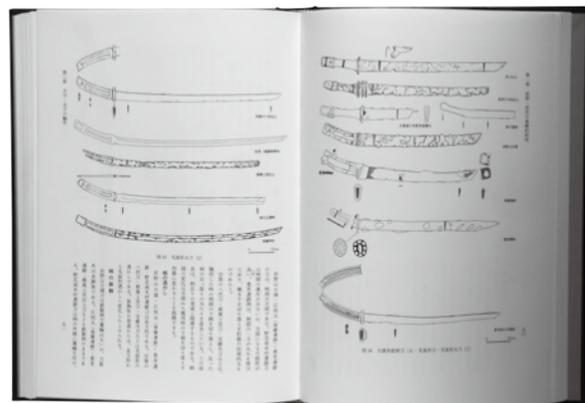
例えば、比較的新しい分野である「情報学」では、情報のあらゆる学問領域をカバーするも

のであって、『情報学とは何か』では「情報の獲得・表現・蓄積・流通・検索など、情報が発生し、収集・処理され、活用されるすべての過程における学問」と定義される。その伝でいくと、刀剣学も本来、あらゆる学問領域をカバーし、刀剣がかかわってきたすべての過程を対

象としなければならないはずであるが、現状はほど遠い。

また、少なくとも国内における流通と生産の原初から現在までが研究領域かと思いきや、ご承知の通り、鎗造りで反りの現れた時代以降しか眼中にない。

このほど、あらためて啓発される書を得た。著者は栃木県埋蔵文化財センター



能な限り実測し作図してきた。この大著は、その努力のたまものでもある。

古代の武器・武具の分野では新井白石の『本朝軍器考』を嚆矢とし、後藤守一・山上八郎・鈴木敬三・末永雅雄らの泰斗が成果を蓄積してきた。刀剣界では石井昌国氏が著名である。本書はこれらを受け止め、刀剣史をほるかな高みへと押し上げる土台を構築したと言えよう。

今、あえて刀剣学の方向性を定めるとすれば、津野・近藤両氏ら、人文・社会・自然各科学の専門家の支援を得るべきであろう。それを主導するのが、鑑識に関する豊富な実績を持つ刀剣人であることは論をまたない。

なお、同じく日本刀の発生以前をテーマとする研究書に菊地芳朗『古墳時代史の展開と東北社会』と豊島直博『鉄製武器の流通と初期国家形成』がある。

（土子民夫）

NEWS & TOPICS

正倉院宝物と類似の刀子が出土

国内最大級と言われる十五郎穴横穴墓群（茨城県ひたちなか市中根）から、奈良・正倉院の宝物と類似した形状の帯執金具が出土した刀子が出土した。

出土した刀子は盗掘を受けておらず、山形金・口金具・尻金具の装具と一体で見つかった。全長約二五センチ。八世紀中ごろのものとして推定される。

また、埋葬されたのは当時の中央政権と密接な関係を持つ、地位の高い人物とみられている。刀子はもとより文具であったが、後に帯に下げて貴人などの

身分を象徴する装身具としても用いられた。

玄室にはこのほか、九世紀前半の須恵器と、全長約五五センチの大刀一点や刀子四点、頭骨六体分、火葬された人骨二体分があり、入り口付近の前庭部からは須恵器など五十七点も出土した。

十五郎穴横穴墓群は三〇〇〜四〇〇基から成り、七世紀前期から九世紀中ごろにわたるとき、ひたちなか市教育委員会が全容解明のため、平成十九年から調査している。

NEWS & TOPICS

備前長船刀剣博物館で今度はエヴァンゲリオン展

備前長船刀剣博物館（岡山県瀬戸内市長船町）で七月十四日〜九月十七日、人気アニメ「新世紀エヴァンゲリオン」と日本刀を融合させた特別展「新日本刀版エヴァンゲリオン」を開催する。刀匠・職方が、アニメに登場するロングキヌスの槍や作品の世界をイメージした刀剣を作り、展示の目玉にするという。

同館では昨夏、人気ゲームの「戦国BASARA」の登場人物にちなんだ武器や武具を展示

する企画展を開いたところ、若い世代を中心に約二万人の入場者を記録した。

今回は、作品で重要な役割を果たすロングキヌスの槍を約三メートルで再現するほか、関連作品に登場する刀なども製作し、作品の歩みを紹介するパネルなど合わせ、約五十点を展示。

関係者は「若者に絶大な人気のあるアニメを通じ、日本刀の文化や日本の物作りへの理解を深めてもらいたい」と期待している。

NEWS & TOPICS

日本美術刀剣保存協会が公益財団法人に

三月二日、公益認定等委員会は野田総理に対し、二月二十三日付で諮問のあった財団法人日本美術刀剣保存協会ほかについて、「法律に規定する認定の基準に適合すると認めるのが相当である」との答申を提出した。

認定されれば、刀剣業界では先の公益財団法人日本刀文化振興協会に次いで二つ目の公益法人となる。

なお同協会の公益目的事業は伝統文化保存普及事業、収益事業は「該当なし」となっている。

■公益財団法人日本刀文化振興協会
〒115-0044 東京都北区赤羽南2-4-7
鷹匠ハイツ301号 ☎03(5249)4440
http://www.nbsk-jp.org/

第3回 「新作日本刀・研磨・外装 刀職技術展覧会」

公益財団法人日本刀文化振興協会は平成24年度の公益目的事業として、第3回「新作日本刀・研磨・外装 刀職技術展覧会」を開催する。本展は、大臣賞等をもって優れた作品を顕彰するコンクールと併せ、その成果を広く公開するものである。ついで、関係各位においては鋭意ご応募いただきたい。

名称：日本刀一悠久の美を見つめて
—第3回新作日本刀・研磨・外装刀職技術展覧会—
会場：大倉集古館
会期：6月9日(土)～7月22日(日)
部門：作刀・刀身彫刻/研磨/刀装の3部門
授賞：特別賞(経済産業大臣賞など数点を申請)・日本刀文化振興協会会長賞・技術奨励作・新人賞・功労賞・金賞・銀賞・銅賞・入選
受付：4月16日(月)～19日(木)大倉集古館にて
※詳しくはホームページを参照のこと。

■財団法人日本美術刀剣保存協会
〒151-0053 東京都渋谷区代々木4-25-10
☎03(3379)1386

平成24年新作名刀展

新作名刀展は、作刀、彫金および刀身彫刻等の伝統技術の保存と向上を図るとともに、愛刀家をはじめとした多くの方々に現代技術の優秀さを認識してもらうことにより、刀剣の文化財としての関心を高めることを目的としている。ふるってご出品ください。

受付期間：4月2日(月)～4日(水)
出品方法：規定の申込書および受付(本協会に用意)に記入の上、出品物件とともに提出
各賞と賞金：
・正宗賞 賞金20万円および副賞
・特賞 賞金10万円および副賞
・優秀賞 賞金5万円
・努力賞 賞金2万円
・新人賞 賞金5万円
表彰式：
5月29日(火) 刀剣博物館4階講堂
展示：
・刀剣博物館 5月29日(火)～6月24日(日)
・川越市立博物館 6月30日(土)～7月16日(月・祝)
・致道博物館 7月中旬～8月上旬

〈館蔵名品展〉
同時開催「刀装具に見る龍の世界」
当館が所蔵する400点を超える刀剣の中には、国宝3点・重要文化財7点・重要美術品15点が含まれる。この度の展示では、日本刀草創期から現代まで、各時代の優品を通して日本刀通史を一挙公開する。

併せて、刀装具では今年の干支にちなみ、主要な画題である龍の作品を展示する。
会期：1月5日(木)～5月6日(日)

〈定例鑑賞会〉
期日：4月14日(土)・5月12日(土)
会場：刀剣博物館4階講堂



まず正月二日に、研師の藤代興里氏・藤代龍哉氏、鞘師の水野美行氏、刀身彫師の橋本秀巴氏による、刀剣研磨・白鞘・刀身彫刻の実演を行いました。しっかりとした仕事と解説の間に息の合った漫才のような雑談

大変な作業。希望者に、本格的な着付けを通して戦国時代の大変さや甲冑の構造の素晴らしさなど、その魅力を余すところなく味わってもらえ



経箱の蓋表(部分)がデザインされた図録表紙

困ったなあと思いつながら進んでいくと、ありました、ありました、平家納経が。小生は実物を見るのは初めて。願文・第一巻の二巻は清盛自身の書です。じっくり拝見。素晴らしい！そして、その平家納経を納める箱も素晴らしい。「金銀荘雲龍文銅製経箱」と言いますが、側面には鍍

猪山家が仕えた前田家のものは、前田育徳会の粋な計らいで利家着用の重要文化財の金漆伊予札白漆威胴丸(中世の甲冑から当世具足への過渡期の特徴を備える)が上京し、来客の足を絶やすことはなからう。この「刀剣界」第四号が読者の手に渡るころ、郷土資料館は梅の賑わいを迎える。冬が最後の意地を見せる三月の雪とこの花が、東京の春の訪れを告げる。時に狐狸も迷い出る板橋赤塚の城址に、恋人やご家族と梅、甲冑を見に訪れるのはいかがだろうか。(網取譲一)

靖國神社新春奉納刀剣展
職方有志と刀匠会関東支部が実演で奉仕
冬らしい寒さが身にしみる、そんな印象の強い年の始まりでした。恒例となりました靖國神社遊就館における現代刀展示および刀職実演は、全国に先駆けて行われる新年最初の大きなイベントです。

これは靖國神社様のご厚意と、日本刀の啓蒙のための奉仕に賛同してくださる職方たちにより実現しています。一月二日から十五日までの二週間、全日本刀匠会関東地方支部在籍刀匠の現代刀十九振と外装二振、靖國神社所蔵の甲冑や兜、鍔などを展示し、戦国時代に思いを馳せる趣向となりました。

「平清盛」展は江戸東京博物館にて一月二日から二月五日まで開催された。一月の東京に大雪の降った翌日、小生も行って来た。平安後期、政権を貴族階級から武家へと橋渡しをしたというくらい知識は乏しく、自分にとって何か新しい発見ができるかと期待して馳せ参じた次第なのだ

「平清盛」展は江戸東京博物館にて一月二日から二月五日まで開催された。一月の東京に大雪の降った翌日、小生も行って来た。平安後期、政権を貴族階級から武家へと橋渡しをしたというくらい知識は乏しく、自分にとって何か新しい発見ができるかと期待して馳せ参じた次第なのだ

「平清盛」展は江戸東京博物館にて一月二日から二月五日まで開催された。一月の東京に大雪の降った翌日、小生も行って来た。平安後期、政権を貴族階級から武家へと橋渡しをしたというくらい知識は乏しく、自分にとって何か新しい発見ができるかと期待して馳せ参じた次第なのだ

「平清盛」展は江戸東京博物館にて一月二日から二月五日まで開催された。一月の東京に大雪の降った翌日、小生も行って来た。平安後期、政権を貴族階級から武家へと橋渡しをしたというくらい知識は乏しく、自分にとって何か新しい発見ができるかと期待して馳せ参じた次第なのだ

「平清盛」展は江戸東京博物館にて一月二日から二月五日まで開催された。一月の東京に大雪の降った翌日、小生も行って来た。平安後期、政権を貴族階級から武家へと橋渡しをしたというくらい知識は乏しく、自分にとって何か新しい発見ができるかと期待して馳せ参じた次第なのだ

「平清盛」展
金銀荘雲龍文銅製経箱に感動
「平清盛」展は江戸東京博物館にて一月二日から二月五日まで開催された。一月の東京に大雪の降った翌日、小生も行って来た。平安後期、政権を貴族階級から武家へと橋渡しをしたというくらい知識は乏しく、自分にとって何か新しい発見ができるかと期待して馳せ参じた次第なのだ

「平清盛」展は江戸東京博物館にて一月二日から二月五日まで開催された。一月の東京に大雪の降った翌日、小生も行って来た。平安後期、政権を貴族階級から武家へと橋渡しをしたというくらい知識は乏しく、自分にとって何か新しい発見ができるかと期待して馳せ参じた次第なのだ

「平清盛」展は江戸東京博物館にて一月二日から二月五日まで開催された。一月の東京に大雪の降った翌日、小生も行って来た。平安後期、政権を貴族階級から武家へと橋渡しをしたというくらい知識は乏しく、自分にとって何か新しい発見ができるかと期待して馳せ参じた次第なのだ

「平清盛」展は江戸東京博物館にて一月二日から二月五日まで開催された。一月の東京に大雪の降った翌日、小生も行って来た。平安後期、政権を貴族階級から武家へと橋渡しをしたというくらい知識は乏しく、自分にとって何か新しい発見ができるかと期待して馳せ参じた次第なのだ

「平清盛」展は江戸東京博物館にて一月二日から二月五日まで開催された。一月の東京に大雪の降った翌日、小生も行って来た。平安後期、政権を貴族階級から武家へと橋渡しをしたというくらい知識は乏しく、自分にとって何か新しい発見ができるかと期待して馳せ参じた次第なのだ

「平清盛」展は江戸東京博物館にて一月二日から二月五日まで開催された。一月の東京に大雪の降った翌日、小生も行って来た。平安後期、政権を貴族階級から武家へと橋渡しをしたというくらい知識は乏しく、自分にとって何か新しい発見ができるかと期待して馳せ参じた次第なのだ

「平清盛」展は江戸東京博物館にて一月二日から二月五日まで開催された。一月の東京に大雪の降った翌日、小生も行って来た。平安後期、政権を貴族階級から武家へと橋渡しをしたというくらい知識は乏しく、自分にとって何か新しい発見ができるかと期待して馳せ参じた次第なのだ

イベント・レポート

靖國神社新春奉納刀剣展

「平清盛」展

金銀荘雲龍文銅製経箱に感動

当世具足―大名と家臣団の備え

鏡兜には先祖の霊力が宿っている…か？

催事情報

和鋼博物館

〒692-0011 島根県安来市安来町1058 ☎0854(23)2500

古代出雲の装飾付大刀～遙かなるいにしへの“巧”と“美”～ (神話の里4館合同企画「炎の力」～土器から陶器へ、青銅器から鋼へ～)

古墳時代の装飾付大刀は、金・銀・銅・漆・玉などで飾られており、後代の刀剣とは形状や装飾など異なる点が多く、その製作技術は古代の匠の優れた技量を今に伝えていきます。

華麗な装飾が施された大刀は初め大陸で作られたものが輸入されました。古墳時代後期になると、大和朝廷の下で多種多様な装飾付大刀が製作され、各地の有力者へ与えられるようになり、所有者の権威を高めるために重要な役割を果たしました。

そのころの出雲の東部と西部とでは、装飾付大刀の形や製作技術が異なっていますが、やがて7世紀初頭になると地域色がなくなります。これは、出雲の東西の豪族と結び付いていた大和朝廷の異なる勢力が統一化されていく様子を示すとみられます。

本展では、古墳時代後期の装飾付

大刀とその復元品および副葬品を通して、その技と美しさとともに、古代出雲の豪族の盛衰や大和朝廷との結び付きについて紹介します。

併せて、古代刀剣の復元製作について特集展示します。

会期：4月14日(土)～5月13日(日)
会期中の行事：

- ・記念講演 4月22日(日)13:30～
①松尾充晶「古代出雲の装飾付大刀」(仮)
②高山一之「鞘師の語る装飾付大刀の魅力」(仮)
- ・現地探訪「出雲国古墳巡り」(装飾付大刀出土地を訪ねて) 4月25日(水)
- ・ギャラリートーク ①4月29日(日)、②5月3日(木・祝日)いずれも14:00～
- ・古代大刀を持ってみよう、古代衣装を着てみよう(日時未定)



安来市高広横穴墓出土「双龍環頭大刀」(復元)
拵製作/高山一之・宮島宏、刀身製作/河内国平、研磨/尾崎明幸

餅鉄によるたたら製鉄実験と講演会

宮城県伊具郡丸森町筆甫の歴史には慶長15年(1610)ごろからキリシタン武士・東海林備後によってもたらされた技術による鉄生産がある。子孫の庄司家当主は16代目に当たり、「筆甫の製鉄を復元する会」の中心メンバーでもある。

「復元する会」は同地在住の7名が平成14年2月に発足させたもので、毎年4回鉄作り挑戦してきた。今回の餅鉄実験は、東日本大震災からの早期復興の願いを込め、「筆甫の製鉄を復元する会」が主催し、社団法人日本鉄鋼協会「鉄の技術と歴史」フォーラムの協力の下に開催するものである。

なお、使用原料の餅鉄を採取した種山高原(岩手県)は旧仙台藩の最北部、実験場所の筆甫は最南端に位置する。実験は、この地域の産業史

を再考する端緒にしたいとの期待も込められている。

期日：4月15日(日)

実験会場：宮城県丸森町筆甫・旧筆甫中学校前 6～16時

宿泊・講演会・懇親会会場：国民宿舎「あぶくま荘」丸森町不動50-5 ☎0224(72)2105

- ・講演会：16～18時
①高橋礼二郎「筆甫と仙台藩の鉄の歴史、なぜ復元実験か？」
②尾崎保博「砂鉄から鉄鉱石原料への過渡期における餅鉄の役割」
- ・懇親会：18～21時

料金：宿泊8,000円、懇親会5,000円

※申し込みは3月31日(土)までに下記あてに。〒981-8007 仙台市泉区虹の丘1-13-34 高橋礼二郎 takareijiro@yahoo.co.jp

「館充先生記念シンポジウム」と「偲ぶ会」開催のご案内

社団法人日本鉄鋼協会「鉄の技術と歴史」フォーラム初代座長である館充先生は昨年11月29日に急逝されました。享年89歳でした。館先生はお亡くなりになる直前まで「古来の砂鉄製錬法」復刻・解説版や「中国の青銅と鉄の歴史」の翻訳・解説書を発行されるなど、終生現役でありました。

館先生は大正11年、秋田県大館市に生まれ、東京帝国大学第二工学部冶金学科を卒業。その後、東京大学生産技術研究所助手、同助教授、工学部教授を経て、生産技術研究所教授となり、1982年3月定年退職され、その後は東京大学名誉教授でした。また、住友金属工業株式会社顧問、千葉工業大学教授となり、平成4年3月に退職されました。

私たちはこの度、先生のご遺徳を偲び、永く記憶に留めるための記念行事を企画しましたので、のご案内をさせていただきます。

日時：4月28日(土)
記念シンポジウム 13～17時
偲ぶ会 17～19時
会場：東京大学山上会館(本郷キャンパス)

＜館充先生記念シンポジウム＞

1. 基調講演：「館先生からの宿題とフォーラムの展望」高橋礼二郎(鉄の技術と歴史フォーラム座長)
2. 「東大生産研試験溶鋳炉の操業とその経験」天辰正義(元東京大学工学部・館研究室)
3. 「鉄鉱石利用の面からみた製鉄の歴史考」稲角忠弘(元新日本製鉄(株))
4. 「資源対応力強化のための革新的製鉄原料—東大試験溶鋳炉から30年目の再挑戦」武田幹治(JFEスチール(株))
5. 「モノづくり遺伝子に響く“たたら”の起源と未来」櫻木準一(北九州環境プラントサービス(株))
6. 「日常生活の中から鉄器を考える」朝岡康二(元国立歴史民俗博物館)

参加費：記念シンポジウム2,000円、偲ぶ会5,000円

※申し込みは4月14日(土)までに下記あてに。〒981-8007 仙台市泉区虹の丘1-13-34 高橋礼二郎 takareijiro@yahoo.co.jp

☆次号は、当組合の第25回通常総会と日本美術刀剣保存協会の公益法人認定の詳細を取り上げます。

東京国立博物館

〒110-8712 東京都台東区上野公園13-9 ☎03(5777)8600 (ハローダイヤル)

東京国立博物館140周年 特別展「ボストン美術館 日本美術の至宝」

アメリカのボストン美術館は「東洋美術の殿堂」と称される。100年以上にわたる日本美術の収集は、アーネスト・フェノロサや岡倉天心に始まり、今や10万点を超え、海外にある日本美術コレクションとしては、世界随一の規模と質の高さを誇る。

本展では、その中から厳選された仏像・仏画に絵巻、中世水墨画から近世絵画まで、約90点を紹介する。

修復を終え、日本初公開となる曾我蕭白の最高傑作「雲龍図」(ポスター写真)をはじめ、長谷川等伯、尾形光琳、伊藤若冲などの手による、かつて海を渡った「幻の国宝」とも呼べる日本美術の至宝が一堂に里帰りする。

展観は6つの章立てで構成され、第6章では、文保3年(1319)銘の尻懸則長短刀と梨地秋草時絵合口拵などが出品される。

- 第1章 仏のかたち 神のすがた
- 第2章 海を渡った二大絵巻
- 第3章 静寂と輝き—中世水墨画と初期狩野派
- 第4章 華ひらく近世絵画
- 第5章 奇才 曾我蕭白
- 第6章 アメリカ人を魅了した日本

のわざ—刀剣と染織
会期：3月20日(火)～6月10日(日)

本館1階13室ジャンル別展示「刀剣」

華やかな丁子乱れの刃文の吉房太刀、直刃の来国俊短刀、そして貞宗の刀など、平安時代から江戸時代に至る各流派を代表する刀剣12口を展示する。刀装具は、季節にちなみ、梅や桜などの図柄を集めて展示する。

会期：2月21日(火)～5月13日(日)

本館2階5・6室「日本美術の流れ」

武士の装い—平安～江戸
鎌倉時代から江戸時代までの武士が用いた刀剣・刀装・甲冑・馬具・装束や、武士の肖像画・書状などを展示する。刀剣は、東照宮が所蔵し「日光助真」の号で知られる福岡一文字助真の太刀と、その外装である黒漆打刀など、刀装が付属するのは同時に展示する。刀装は掛川神社の糸巻太刀、大神山神社の合口など、さまざまな形式や技法による作品、甲冑は大山祇神社の大鎧をはじめ腹巻・当世具足の各種。特に今回は、徳川四天王の榊原康政所用の具足と、それを身に着けた肖像画も見られる。

会期：2月14日(火)～5月6日(日)



静嘉堂文庫美術館

〒157-0076 東京都世田谷区岡本2-23-1 ☎03(3700)0007

サムライたちの美学—新刀と刀装具にみる粋の心—

およそ1,000年の歴史を誇る日本刀のうち、桃山時代以降に製作されたものを「新刀」と呼ぶ。新刀の刀工たちは鎌倉～室町時代の優れた古刀をモデルとしながらも、独自の作風をつくり出し、時代の流行に添っていった。

本展では、戦国時代に短く直された古刀に始まり、江戸時代の諸藩を抱え刀工の作刀や幕末の新々刀を展示する。また重要文化財「四条河原遊楽図屏風」を特別出品し、描き込まれた風俗を、江戸時代の印籠・根付や装剣小道具とともに紹介する。

会期：2月4日(土)～3月25日(日)

主な出品作品：

- ・堀川国広刀 桃山時代 16～17世紀
- ・重美 山浦清磨刀 江戸時代 弘化4年(1847)
- ・長曾祢虎徹刀 江戸時代 17世紀
- ・藍草巻柄打刀拵 江戸時代 18～19世紀

- ・芦雁時絵鞆打刀拵 渡邊桃船作 明治時代 19世紀
- ・花鳥図大小鐔 三所物 石黒是美作 江戸時代 19世紀



吉原義人刀匠がイタリアで日本刀製作を公開

5月25～27日、イタリアのノバラで第15回世界剣道チャンピオンシップ(WKC)が開催されるが、これに先立つ19～21日、同地で吉原義人刀匠による日本刀製作の公開実演が行われる。

WKCは70年に東京で始まり、3年ごとに世界各地で開催されてきたもので、イタリアでは初めての開催となる。今回も約900人の剣道家が参加する。ノバラは、マルペンサ空港とミラノの中間に位置し、古代ローマ時代から続く人口10万2,000人の都市。市長は「剣道と日本刀を通じて文化交流ができれば」と、歓迎のメッセージを寄せている。

吉原刀匠にとって、愛刀家の多いイタリアでの実演は今回で3度目であるが、火作りから焼入れまでを公開するのは初めて。05年にトリノで、また翌年にはイタリア日本刀協会(INTK)の要望によりフィレンツェ・バルジェロでいずれも焼入れを行っている。

実演は13世紀のプロレット(市の会議場)中庭で行われ、その会議場では吉原刀匠の作品をはじめ、INTK会員の刀・甲冑なども展示される。吉原刀匠は、「日本刀の世界を少しでも広げることができれば」との思いで実演に臨むという。